

## 様式B

# 令和6年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立中之島幼稚園

教育目標 主体的で、感性豊かな子供を育てる。

ゆめ	重点目標	具体的取組		取組の状況
主体的に遊ぶ子供を育てる	学びが生まれる環境と援助を探る	豊かな環境を構成する	十分に遊び込める時間や場所を確保するとともに、子供一人一人が興味や関心をもち、主体的に遊べるような環境の工夫をする。	登園後から約2時間は好きな場所でいたいこと(遊び)ができるようにしている。行事がある時期にもできるだけ時間を確保するように努めた。自分で選択して遊べるように子供の姿を捉えながら、さまざまな遊具や用具、材料等を準備しておくようにする。
			身近な自然に関わり、豊かな体験ができるように、四季折々の野菜や果物を育てたり、身近な生き物に触れられるような環境を整えたりする。	サクラ、ビワ、カキ、ハッサクなどの木々が園内にあることで、季節による変化を感じたり、果物を味わい季節の味覚を味わったりできるようにしている。季節ごとの花(野菜)を植えて自由に遊びに使えるようにしたり、虫がよってくるよう草をはやししたりしている。子供の目につきやすい場所で栽培することや教師が栽培物に関わる姿を見て興味をもてるようにしている。
			職員で子供の様子を共有し、子供の姿に合わせて、その都度環境を見直していく。	全職員で、子供の遊びの様子や育ちをしっかりと捉え、子供たちの興味や関心が広がっていくように、また深まっていくように環境の見直しをしてきた。
		豊かな心を育む	一人一人が安心して園生活を送り、伸び伸びと自分の気持ちや考えを表現できるようにする。	一人一人の思いを大切にし、認めたり、共感したりすることで安心して自分の思いをだせるように心がけている。
			主体的な遊びを通して、一人一人が考えたり試したりして遊ぶ中で、達成感や充実感を味わえるようにする。	自分で好きな遊びを見つけ、しっかりと遊び込める時間を確保し、考えたり、試したり、工夫したりする力が育めるように環境構成を行い、満足感や充実感が感じられるようにしてきた。
			子供の育ちを保護者と共有し、同じ方向性をもち子供を育てていけるように連携を図る。	・対話を大切に捉え、登降園時に、日々の子供の様子や興味を持っていること等を伝え合ったり、懇談で育ちや課題を共有したりしている。 ・クラスだよりは保護者にわかりやすいように、写真を使って子供たちの遊びの様子や考えや思い等を伝えるようにしている。
		人と関わる力を育む	思いを伝え合ったり、相手の気持ちを受け止めたりしながら、友達と気持ちを通わせる喜びを感じられるようにする。	子供達のかかわりを見守り自分なりに伝えようとする姿を受け止め、共感したり必要に応じて言葉をつけ足したり代弁したりして、自分の思いが伝わった嬉しさを感じられるようにする。またその気持ちに寄り添うようにする。
			遊びや生活の中で、異年齢児や地域の方と触れ合い、つながりや親しみを感じられるようにする。	・教師は遊びに干渉しすぎないようにし、遊びの中での子供同士(異年齢児)の関わりを大切に、その中で心の育ちを大切に捉えていくように努めてきた。また気持ちや考えに共感したり認めたりするようにしてきている。
			小学校生活に期待をもったり、小学生に憧れや親しみをもったりできるように、小学校との交流を深め、連携を図る。	ベア学年を決め、交流遊びをしたり、合同避難訓練を実施した。隣接しているため体育の授業の様子や休憩時間の様子をみて小学校を身近に感じているように思われる。

## 保護者アンケート集計結果の比較から見てきた成果や課題

保護者アンケート集計結果からは全項目において『とてもそう思う』『そう思う』と答えた方がほぼ90%を超え、幼稚園があげた目標とその取組を理解していただいていることがうかがえる。一人一人に寄り添い、保護者との対話を大切に、育ちや課題を共有しながら、信頼関係を築けている結果だと考えられる。しかし『わからない』という回答もあることから、園はもっと教育方針や子供たちの成長の様子を保護者に伝えていく工夫が必要だと感じた。

## 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

昨年度に引き続き、「主体的に遊ぶ子供を育てる」を目標に、豊かな環境の中で自ら考えたり、試したり、友達と関わったりなどの直接的な体験を大切に、学びが生まれる環境と援助を実践してきた。  
特に園で収穫した野菜などは、子供の思いを大切にしながら食べたり、年長児がお料理したりして、友達と一緒に食べる経験をしてきた。結果、自分たちから「先生もう食べれそう・・・」「大きくなってるかな・・・」と様子を見に行ったり、水やりをしたりする姿が以前より多く見られるようになってきている。  
一人一人を大切に遊びに夢中になれる時間を十分にとり、やりたいことが選べる環境を準備し、援助のタイミングや援助の仕方をしっかりと見極めてかかわっていくことに努めてきた。子供たちは自分のしたいことをじっくりと取り組み、満足感や充実感を十分に味わうことができたと感じている。今後も日々の積み重ねを大切に、職員同士の情報や子供の育ちの共有などしっかりと連携していきながら進めていきたいと考えている。

## 学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

先生たちは試行錯誤しながら、子どもたちにとってより良い環境を整え、一人一人の関わりを大事にしていると感じた。子供たちは野菜を育てて食べたり虫を探ったり、普段できない遊びが経験でき、失敗してもうまくいくように考えたり、新しいことにチャレンジしていくような機会がたくさんあり、心身ともに成長していると思った。  
今後園児数の減少が問題となっており、少ない人数の中でも子供たちがのびのび育ち主体的に遊べるようにつなげていってほしい。